

校長室から

学校教育目標

　　「知・徳・体、調和のとれた生徒の育成」

　　　　　　　～進取的な努力をする人材の育成～

令和4年10月21日　第29号

運命の日

秋風が漂い朝夕は、寒さを感じるようになりました。３年生にとっては、いよいよ進路に向かって本格的に動き出すことになります。風の中に温かさを感じるころ、進路についても結論が出ているはずです。

さて、昨日、プロ野球のドラフト会議がありました。少年のころからひたすら野球に打ち込んで、一定の成績を収めそれを評価された選手が「プロ志望届」を提出し、会議に臨みました。

毎年、自分の名前が呼ばれたらどうしようとドキドキしながら見つめるのですが、(ほとんどの球団の監督が年下なのに)今年は、例年以上にドキドキしながら見守ったのでした。

新しい選手が入ってくるということは、今年まで在籍した選手の何人かが出ていくことになります。かつては、ドラフト会議で指名されて、近隣では大騒ぎになって、一躍有名人。胴上げなんかされたりして。

ところが、プロの世界は実力のみが生き残るすべて。

数年たって活躍しなければ、やがて忘れ去られ、スポ－ツ新聞の隅のほうに、入団した時よりもずっと小さな文字で引退を告げられる。

学生時代、絶対指名されると大騒ぎになり体育館には、たくさんの人。そのなか、いつまでたっても名前が呼ばれず、結局指名なし。

「みなさん、すみませんでした」となぜかお詫びする姿に、何とも言えない場内の空気。ちなみにその選手は、その後社会人野球に進み、そこからブロ入り。名球会にも名前を残し、監督にもなって。「運命の日」なんて、後から思うもので、人生はそんな単純じゃない。そんなことを考えていました。